

現代民俗学会 2009年度第2回運営委員会 議事録

日時：2009年9月2日 17:10～19:00

場所：筑波大学人文社会学系棟 B113 教室

出席：石本、岡田、菅、塚原、徳丸、花木、吉家、松岡、渡部

1. 会計

一般9名、学生2名の新入会員があり、現在の会員数は117名となっていることが報告された。
つぎに9月現在の2009年度の収支が報告された。

雑誌の在庫について、現在の残部は144冊であることなどが報告された。

2. 研究会

（1）ドロシー・ノイズ氏企画について

日程は1月23日（土）で確定しており、通訳をお願いする小長谷英代氏・平山美雪氏の日程も確保ずみであることが報告された。会場については候補となっている会場があることを報告された。また日本民俗学会との共催になったことをうけて、文書で正式な要請を行う方針であることが説明された。広報について、年会にあわせて案内を作成し、周知をはかりたいとの意見が出された。

（2）その他の研究会企画について

11月に開催予定の研究会については、「「社会」再考－民俗学にとっての「全体」とは何か－」（仮題）として準備を進めていることが報告された。

発表者は武井基晃氏（筑波大学）・岡山卓也氏（東北学院大学大学院）で確定しており、現在、コメントーターを打診中である。日程が固まり次第、都内で会場を確保することになった。

さらに次回以降を企画中であることが報告された。協議の結果、「80年代学史」は来年3月の開催にむけて準備する方針となった。なお年次大会の企画については、年明けの運営委員会の議事とする。

このほか、研究会を定例化すべきとの意見が出され、研究会担当で協議することとなった。

3. 編集

(1) 創刊号について

創刊号の在庫について補足があり、論文執筆者と要旨執筆者に送付したことが報告された。今年度の日本民俗学会年会での販売を申し込んだことが報告された。電子版の公開について協議され、英文要旨・タイトルを早急に公開すること、宮本会長のあいさつ文を公開することで合意した。

(2) 第2号について

現在8本の論文（書評論文1本を含む）・研究ノートのエントリーをうけていること、「批評」欄についても10月以降、研究会企画と連携して依頼を行うことが報告された。エントリー内容に関して、投稿内容によっては「現代」の問題との関わりに言及してもらう必要があるとの意見が出された。

査読の形式について意見がかわされ、基本的に会員に依頼すること、運営委員に依頼する場合でも編集担当以外には氏名等は公表しないこと、年1回刊で掲載本数も多くないことから誌上で氏名は公表しないことなどで合意した。

今年度の年次大会シンポジウムの第2号への要旨掲載については、すでに公開ずみの趣意書およびシンポジストの要旨のほか、菅委員がコメントを執筆することとなった。分量等を含め、後日具体的に依頼する。

設立総会については、第2号では特集等は組まず、シンポジストへは通常の論文として投稿を打診し第3号以降で対応する方針となった。

4. 庶務

(1) 雑誌の寄贈先

会誌の寄贈先について、リスト案が検討され、一部修正された。修正後のリストを委員会で回覧の上で発送業務に移る。なお台湾、中国、韓国などアジアの有力機関を別途リスト化してはどうかとの提案があり、今後作成する方針となった。

(2) 庶務の増員

雑誌の在庫管理担当として、とくに雑誌の在庫管理や販売等にあたるため渉外の人員を増やしたいとの提案があり、了承された。在庫は庶務で管理し、会計に報告することとなった。

以上